

図書館長

お薦めの一冊



このコーナーでは、川崎市立図書館の館長がお薦めする1冊をご紹介します。

幸図書館日吉分館長 齊藤 実

■『チョコレート戦争』

大石 真 著

すずらん通りにある子どもたち憧れの洋菓子屋、金泉堂。ある日、小学生の光一と明がショーウィンドー越しに店の名物であるチョコレートの城を眺めていると、突然、目の前のガラスが割れ、その場に居合わせた光一がたまたまエアソフトガンを持っていたことから、お店の人に犯人扱いされてしまいます。2人は無実を訴えますが、信じてくれたのは桜井先生という若い女性の先生だけでした。悔しくてたまらない光一はチョコレートの城を盗み出す計画を立てますが、事件は光一の計画とは別に、思わぬ方向へ展開していきます。ショーウィンドーを割ったと一方的に決めつけられた子どもたちが大人たちと戦う物語は、テンポがよく、また、登場するキャラクターは個性にあふれ、ユーモラス。後半に続くどんでん返しの展開にもハラハラドキドキさせられます。

『チョコレート戦争』は1965年の初版以来、多くの子どもたちに愛されてきた児童書の名作で、その後多くの版を重ね、1982年にはテレビドラマ化もされています。作者の大石真さんは、1925年12月8日生まれの昭和、平成時代を代表する児童文学作家です。作家への道を歩みはじめたきっかけは、第一早稲田高等学院に在学中に、坪田譲治氏が顧問を務めていた早大童話会に入会したことでした。早稲田大学卒業後は小峰書店に入社し、編集者として児童図書刊行に携わるかたわら、創作活動をスタートさせました。昭和28年に『風信器』で児童文学者協会の新人賞を受賞したほか、昭和38年に短編

の『みえなくなったクロ』が小学館文学賞を受賞するなど、数々の賞を受賞しました。出版社退職後、作家活動に専念し、『チョコレート戦争』、『魔女のいる教室』など、200冊あまりに及ぶ作品を執筆しました。

私にとって『チョコレート戦争』は、それまでほとんど読書の習慣がなかった

当時小学校低学年だった息子への読み聞かせ用に購入したもので、今では懐かしい思い出となっています。好奇心が旺盛で、感性豊かな小学生の子どもたち。良いものに会ったらどんどん吸収する小学生時代に、できるだけたくさん本を読んでほしい、できれば名作を読んでほしい、という思いは、多くの親御さんに共通する願いではないでしょうか。皆様のお子様の成長に合わせた本選びにお近くの市立図書館がお役に立てれば幸いです。



『チョコレート戦争』
大石 真／著 理論社

■幸図書館日吉分館

JR新川崎駅から徒歩15分。幸区役所日吉出張所の3階が日吉分館です。日吉地区は、加瀬山など豊かな自然があり、文化遺産や史跡など多くの歴史資産を有する地域です。

日吉分館は市立図書館の中でも絵本や児童書の割合が高く充実しており、ご利用者にもお子様連れの方が多く印象です。毎月第2・4月曜日（8月12日・12月23日はお休み）には2歳から4歳向け、第2金曜日・不定期金曜日（8月はお休み）には4歳から小学校低学年向けにボランティアが絵本の読み聞かせを行っています。また、毎月第3水曜日には4歳から小学生向けのストーリーテリングも行うなど、お子様の成長に合わせて、本の世界に触れ、読書の楽しさを知ってもらえるような働きかけに努めています。

近くにはレッサーパンダやペンギンに出会える無料の動物公園「夢見ヶ崎動物公園」もありますので、ぜひ1度で来館ください。

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橘分館(788-1531)
幸図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	管覧所(946-3271)